

おもちゃ病院

—おもちゃドクターの挑戦—

日本おもちゃ病院協会 **嶋田 弘史**
しまだ ひろし
 要約：帝京大学 **わたなべ こうへい**
わたなべ こうへい

① 日本おもちゃ病院協会について

「日本おもちゃ病院協会」は、各地で個別におもちゃを修理していた人たちの情報交換、技術の向上、ネットワークを駆使して不足部品等を充足し、おもちゃ病院の普及を目指して1996年に発足した、おもちゃドクターのボランティア団体です。現在、会員は740名で、全国約350カ所でおもちゃ病院を開設しています。協会に関係したおもちゃドクターは、高齢で「病院勤務」を辞したけれども自宅で活動中などの方を含めると3,000人に達します。

なおYahoo!の検索では病院数は3,000を超えています。当然、その中には高い技術と責任を持って活動にあたっている病院も多いと思われますが、現在協会として、技術が優秀であるばかりでなく協会のモットーとしている修理完了品に「安全と安心」を込められる病院として認定しているのが上記の350カ所ということです。

この協会は、全国のおもちゃ病院を紹介するだけでなく、おもちゃ病院の普及および会員のおもちゃ修理の技術向上を目的としておもちゃドクターをめざす方への養成講座、テキスト[†]の

出版、助成事業による地方での出前講座、社会福祉協議会との協賛による各地での講座を開催し、会員相互の情報交換や技術交流を行っています。

② おもちゃドクター養成講座について

協会が主催する「おもちゃドクター養成講座」は初級入門編と中級実習編に分かれており、入門編では、おもちゃドクターの心構えからPL法などの法律問題、修理工具・測定用具の選びかたや、テスターの使い方、電池の知識、接着材の知識、素材の知識、症例、おもな故障原因、故障診断法、損傷部分部位



写真1 開催場所：写真は浦安市入船

† 日本おもちゃ病院協会監修「おもちゃドクター入門」黎明書房（P.88 書評を参照）

の原因別修理法など、おもちゃドクターとして必要な基本的な修理の知識を実践的に学ぶようになっていきます。実習編では、おもちゃ病院活動と環境、修理手順、接着剤の選び方、ハンダ付け実習、回路テスターの使い方、ラジコン検波器製作、おもちゃ修理実習など、おもちゃ病院活動に役立つ技術と情報を得ることができます。入門編を受けた初級ドクターたちが住居に近いおもちゃ病院でインターン修行を1~2年積んだ後、次は中級実習編を受けていただく。それで初めて一人前の「おもちゃドクター」が誕生するのです。

3 おもちゃドクターの成立と役割

原っぱや空き地がたくさんあった時代、どこの町にも世話焼きおばさん、おじさんたちがいて外で遊ぶ子供たちを地域全体が見守り、子育てをし

ていました。しかし近年になって、わずらわしい地縁を遠ざけてきた結果として、地域に根づいていた「子育ての、ゆるやかなつながり」が断ち切られてしまっています。そうした地域コミュニケーションの消失が子供をめぐるさまざまな社会問題の一因となっています。このため各地で、「町ぐるみで子育て」を取り戻そうとする試みが始まっています。おもちゃドクターとは、ボランティアで壊れたおもちゃの修理を請け負う、「おもちゃのお医者さん」ですが、おもちゃの修理を通じて、子供たちに物の大切さを伝える活動を行っており、「おもちゃドクター」の活動も「町ぐるみで子育て」の取り組みの一つといえるでしょう。また、おもちゃドクターの会員は、長年の経験や専門技術を活かすことで、誇りを持って地域おもちゃ病院でボランティ



写真2 受付：病状等を書き込む



写真3 修理現場：ハンダ付けはおもちゃドクターとして必須の技術

ア活動を行っており、「おじさん、ありがとうございます」と子供たちが喜ぶ顔を定年後の生きがいにしている人も多く、高齢者の活性化だけでなく、地域社会の福祉の向上にも寄与しています。

子どもたちの「おもちゃ遊び」は知育だと思っています。目の前でおもちゃの修理を見せることで、内部構造・仕組みに興味を持たせれば、昨今言われる「子どもたちの理科離れ」は解消すると思います。その意味からも私の運営する市の公民館おもちゃ病院は、広い机を一人1台使わせていただき、持ち主の子供たちと対話しながら直せる理想の環境です。おもちゃ病院の開催は、知育、そして、子供たちを理科好きにさせる効果もあります。

4 おもちゃドクターの挑戦

おもちゃドクターたちは、どんな故障にも対応できるよう、日々自分の技術を磨いています。そんな時に助けてくれるのが、さまざまな人生経験を積

み重ね、今はおもちゃ修理に切磋琢磨する仲間たちです。しかし、いくら努力してもどうしようもないのが部品不足です。日本製と思われているおもちゃの99%が外国製、それもほとんどが中国製で、さらにその部品は東南アジア全域で作られているため、まったく手に入らなくなってしまいました。100台の壊れたおもちゃが来ても90台までは治せる自信があります。しかし部品がなければ残りの10台が直せない、子どもたちに「ゴメンネ」というのが一番辛いし悔しい。直せた90台の満足が、直せなかった10台で吹き飛んでしまいます。昔、技術立国日本とさえいわれ、それを支えてきたわれわれの世代にとっては、やりきれない気持ちでいっぱいでした。

入会直後、協会の方針として打ち出されたおもちゃドクター普及のため「おもちゃドクター養成講座」の講師として全国各地を回るチャンスに恵まれました。そこで得た最大の知識は、

細かいねじ・ばね類をはじめとする微細な部品の調達法でした。

大型ごみの日に各家庭から捨てられるラジオカセットテープレコーダー（いわゆるラジカセ）。これは野外使用されることを考え乾電池で動作します（一般におもちゃも乾電池の6ボルトで動作）。このことが幸いし、全く



写真4 修理が終わり退院を待つおもちゃたち

おもちゃと同質・同種の部品でできていることが判明しました。ICが載っているプリント基板とその横に配置されているトランジスタ、積層コンデンサ、スイッチ類、カセット内のテープを動かすメカニズム、その動きを助ける大・小各種のプラスチックギア類、大・小、長・短、さまざまなばね。緻密に組み立てられたそれらを完全に分解することで、おもちゃに通じる機構の知識と、電線類を含めこの紙面では書ききれないほどの豊富な部品が手に入るのです。

今ではラジカセ分解は新人たち譲り、もっぱらパソコンのスキナープリンターに取り組み、ラジカセにはなかったモジュール数の大きいギアを入手し、仲間内に配っています。ラジカセに比べ、メカニカルな部分が多く、ギア類をうまく無傷で取り出すにはより高度な知識と技術が必要なため、ある程度の経験を積んだおもちゃドクターにとって、より高

度な知識を身につけられる、すぐれた教材になりました。

5 おわりに

昔はおもちゃは作るものでしたが、今では買うものになってしまいました。そして壊れたら直すのではなく、捨てるものになっています。そんなおもちゃに対する見方を変えていき、おもちゃに新しい命を与えるのが、おもちゃドクターの役割でしょう。本物の人間のドクターの場合、「内科は知識」、「外科は技術」と分かれるそうですが、われら「おもちゃドクター」には内科も外科もないので、地域のおもちゃ病院代表には深い知識と高い技術の両方を身につけてほしいと伝えています。「たかがおもちゃ、されどおもちゃ」ですが、それだけの気持ちを持って事に当たって欲しいと思っています。

(廃棄物資源循環学会誌Vol.23, No.3, PP.198-201 (2012) に関連記事掲載)



写真5 おもちゃドクターのみなさん